

生きることは分かち合うこと、弱者と

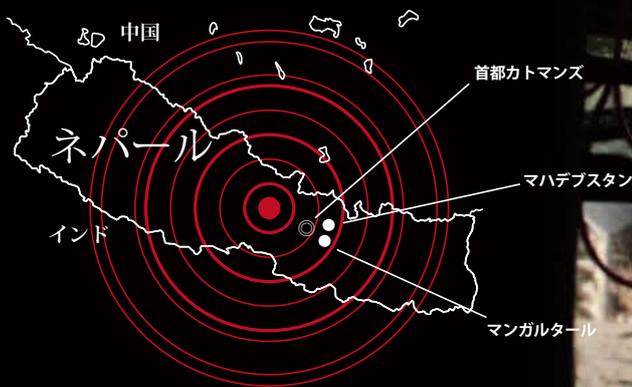
PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume
134
2017.3

公益財団法人PHD協会
2016年度会報134号

PHD SAVE NEPAL



2015.4.25.AM11:56 M7.8

ネパール大地震被災地復興支援報告

PHD 2年間の被災地支援の取り組みと成果をご報告します。

Contents

目次

P2-5 特集 **PHD SAVE NEPAL**

ネパール大地震被災地復興支援報告

P2 マハデブスタン

P3-4 マンガールタール

P5 ネパール PHD 研修生里親募集

P6-8 2016 年度研修生レポート

P9-10 **PHD Movement** vol.17

P11 遺贈・遺産のご寄付

P12 One year 2016 年度国内研修生 1 年を振り返って

P13 PHD 活動紹介 2016 年 11 月～2017 年 2 月

P14 退職の挨拶 今里 拓哉

P15 PHD News

PHD LETTER Volume.134

PHD SAVE NEPAL

ネパール大地震被災地復興支援報告

マハデブスタン地区およびマンガールタール地区

2015年4月25日正午前ネパールをマグニチュード7.8の地震が襲いました。元PHD研修生の活動するマハデブスタン地区やマンガールタール地区も地震により大きな被害を受けました。この2つの地域を中心にPHDは2年の間、緊急災害支援と復興支援に従事してきました。現在は緊急救援という第一フェーズを終了し、生活再建に重きを置く第二フェーズに入ろうとしています。本稿では2年間に渡る第一フェーズのネパール大地震被災地復興支援活動とその成果について報告します。この区切りを前に、2年間に渡るPHDのネパール大地震被災地復興支援活動とその成果についてご報告いたします。

坂西 卓郎=文

～PHD100年構想～

温故知新 岩村語録 その9

PHD運動は『いつでも、どこでも、だれでも』が参加出来『自発、自主、自立』をモットーといたします。それで初めて日本の隅々に広がり、日本からアジアに、アジアから世界に拡がるのであり、100年つづくのであります。
(『PHD Letter』 PHD運動も本格化してまいりました』より原文抜粋)

「自発、自主、自立」、岩村先生が会報の最初に述べられた言葉。これは研修生達の村を指す言葉であり、PHD運動を担う日本側も指している。事務局としてそのような場づくりができていくかと思われる心許ないが、100年後を見据えた一歩を歩んでいきたい。(さ)



ネパール、フィリピンからの研修生らと語る岩村昇先生（右端）。左端はネパール研修生のパラトさん。1982年9月、兵庫県旧篠山町にて。

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT
公益財団法人PHD協会

PHD 運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめて、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

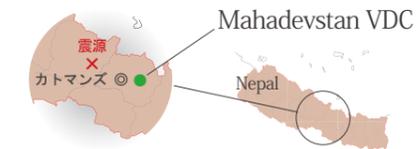
PHD LETTER 134号

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒650-0003 神戸市中央区
山本通4丁目2-12 山手タワーズ601
電話：078-414-7750
FAX：078-414-7611
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：公益財団法人PHD協会
01110-6-29688

今号より目次ページを作成し、設立の経緯、岩村語録も巻頭に移動するなど読みやすいレイアウトに変更しました。

マハデブスタン

地区総支援額 7,758,674円



【緊急救援ガハテ村】

支援額：3,949,102円

ガハテ村全世帯及びダリット^{*1}の世帯(約130世帯)にトタン、お米を供給。SSS^{*2}と協力し飲料水、薬、食料なども供給。



【命の水を届けよう、

簡易水道プロジェクト】

支援額：2,046,806円

ガハテ村及びダリット^{*1}の世帯91世帯、約500人に生活用水を供給。水管理のため一人雇用。



【在来種銀行 一保存と活用一】

支援額：361,187円

20人の女性に在来農作物の種子の保存と活用のトレーニングを提供。



【ガハテ村小学校支援】

支援額：134,438円

甲南高校生徒会からの寄付を遊具として提供。

^{*1} カースト制度外の不可触民。被差別階層。^{*2} PHD協会のマハデブスタン地区現地提携NGO。

【元研修生助産師ランマヤ

がんばれ！プロジェクト】

支援額：504,895円

SSSのクリニックで2015年7月から2016年12月の期間に7289人の方に医療処置を実施。ウルミラさん、ランマヤさん含む3人の助産師でお産は203件。



【ガハテとダリットを対象とした

ヤギ肥育プロジェクト】

支援額：762,237円

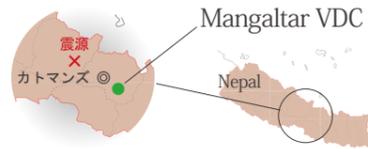
4つの母親グループに46頭の雌ヤギと3頭の雄ヤギを提供。ヤギ飼育トレーニングも行う。

PHD SAVE NEPAL

PHD SAVE NEPAL

マンガルタル

地区総支援額 20,868,441 円



【学校再建プロジェクト】 支援額 : 7,814,713 円

地震により校舎が半壊し、使用不能になったマンガルタル・ジャナビジャヤ小学校。児童は屋外で授業を強いられてきたが、PHD 会員のご寄付により 4 教室が再建中。児童約 200 名の屋内での授業が可能になる。



【ECD センターを通じた
被災した子どもたちのサポート】

支援額 : 245,466 円
幼稚園にあたる ECD センターで 3 ~ 5 才の子ども達に 13 名に教育を提供。順次、他地域に展開予定。2015 年度研修生カ
ンチさんが先生として活躍している。



【将来を描く住民参加型地域調査】

支援額 : 200,898 円
住民参加型で地域内 973 世帯全てを調査。住民ボランティアは 23 人、2017 年
度研修生ミスラさんも参加。



【ピンタリ農業協働組合のサポート】

支援額 : 743,801 円
協同組合研修、産地直売実施のサポ
ート、運搬用車両賃料の提供など。

【住民自身による生計向上強化を
目的とした 5 年間の戦略的な計画づくり】
支援額 : 157,702 円

ネパール大地震被災地復興支援報告



【希望を紡ぐ大工と
石工のトレーニング】
支援額 : 1,655,145 円
大工 6 人、石工 7 人に耐震構
造の建設トレーニングを提
供した。



【収入創出のための
ヤギ肥育プログラム】
支援額 : 1,556,449 円
貧困な状況にある 50 世帯に
ヤギと研修を提供した。



【緊急救援 SAGUN³】
支援額 : 1,411,439 円
被災地域にテント、食料、医療品セッ
トなどを提供。医療補助員も配置した。

³ PHD 協会のマンガルタル地区現地提携 NGO。



【仮設住宅建設支援】 支援額 : 7,082,827 円
被災した貧困家庭 220 世帯にトタンなどの費用を提供した。

Temporary Shelter
(2 rooms)

Household Name: _____
Household number: _____

**Supported by SAGUN, PHD
and Co-op Kobe**



皆さまから PHD へ寄せられた支援総額 : 28,797,609 円

内、コープこうべ様からのご寄付 : 15,237,733 円及び手数料等 : 170,494 円含む



PHD 協会事務所 (神戸市中央区)



「NGOを支援するNGO」JANICさん発行の「シナジー」(2016年4月25日発行)に組織強化の好例として掲載された際の記事



事務所でスタッフ・研修生そろって食事。
頻繁にスタッフ、研修生そろって事務所で料理をして食卓を囲む。

PHD Movement vol.17

神戸発！寿退社しないで済む NGO づくり

事務局長 坂西卓郎 = 文
～分かち合い実践録～

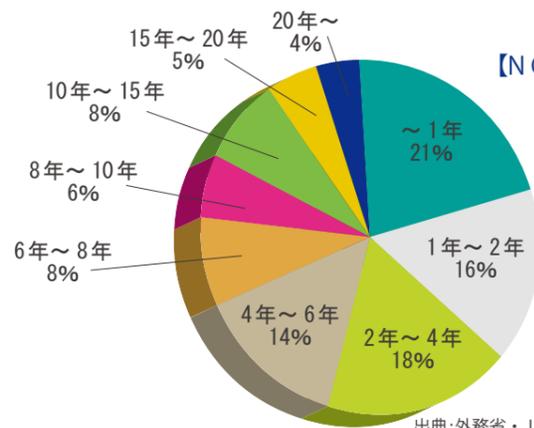
「じいちゃんとボスは夫婦」

本誌P14にあるように研修担当今里が3月末をもって退職する。この機会に「NGOで働く」ということを考えてみたい。本項を始める前に述べておきたいが、事務局長としては職員の退職は常に苦しいものである。小見出しにあるマーチョさんの言葉で「じいちゃん」とは今里のことであり、「ボス」は坂西のことである。2013年の研修生モーママさんが名付けたのだが、なぜか代を経て継承されてしまっている。ともかく普段から常に相談し合っている様子を見て「夫婦みたい」ではなく「夫婦」と見なされてしまったようで、当然ながらその今里の退職に伴う喪失感は大い。ちなみに今里の退職に関しては前述のモーママさんを始め、多くの研修生から「さみしい、かなしい」という声が寄せられている。指導者からも同様のコメントをいただくにつれ、同じ気持ちを抱きつつも今里の5年の働きに改めて感謝したい。

「勤続6年目の壁」

さて前置きが長くなってしまったが、名古屋NGOセンターの会報V01.114(2017.1発行)に「NGO職員「勤続6年目の壁」!？」という特集が掲載されていた。そこには「NGOで勤めている人の約7割は勤続6年未満である」とされている。確かに実感としてうなづくことができる。「NGOで働く、

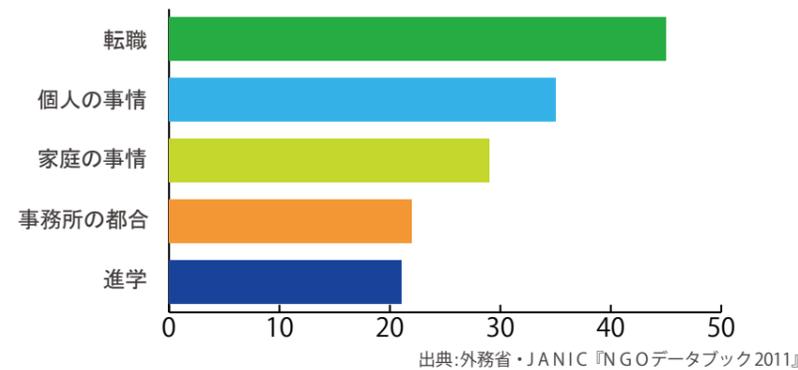
【NGOスタッフの勤続年数】



出典:外務省・JANIC『NGOデータブック2011』

個人的にも夢であったし、やりがいのある幸せな職場と言える。しかし、現実には「長く続かない職場」でもある。当会は皆様のご支援によりNGOとしては比較的勤続年数が長い団体となっているが、研修担当だけを振り返ってみても今里、高垣隆博さん、納堂邦弘さん、谷朱子さんと皆5年で退職しており、6年目の壁は当会にも当てはまる。

【NGOスタッフの退職理由】



出典:外務省・JANIC『NGOデータブック2011』

NGOの退職理由とは？

次に退職理由だが同誌には「団体の理念に賛同して就職したはずが、実際の仕事の大変さや忙しさ、責任の重さなどに耐えかね、葛藤のすえ退職してしまうという人をたくさん見てきました」とあり、他には「給料の安さ」、「結婚、子育て」、「労働時間」なども挙げられていた。NPOで働く女子、略して「N女(えぬじょ)」という言葉も生まれ「収入よりやりがいを求めるハイスペック(高学歴など)な女性」が定義の一つとされているように待遇面の課題は大きい。ちなみに当会上石、新研修担当も博士課程在籍であり「N女」と言えるだろう。

当会の職員は幸い当会での経験を糧に

「世界平和、家庭不和はもう古い？」

とはいえ当会の職場環境に課題がないのかと言えばそうではない。そこで「寿退社しないで済むNGOづくり」を掲げ、職場改善の取り組みを行ってきた。大きく分けると「やりがい実感」、「業務の効率化による労働時間の短縮」の2つとなる。その成果が認められ昨年の9月に東京で全国のNGOのネットワーク組織である国際協力NGOセンター(JANIC)さんの「NGO組織強化の知恵セミナー」にて他のNGOを対象に取り組みの発表をしてきた。またJANICさんの機関紙シナジーにも「神戸から発信!『共に生きる社会』は職場から」というタイトルで当会の事例を2pに渡り掲載していただいた。まだまだ改善は必要であり、遅くまで残業していると研修生から「ボスの家族は可哀想」と怒られることもあるが、私が入社時に比べれば随分と改善されたと思う。引き続き取り組んでいき、「長く働ける職場」、「世界平和、家庭不和の脱却」と国際協力活動のより良い実践を両立していきたい。

* 企業の社会的責任。

遺贈・遺産のご寄付

遺言書を作成し、ご自分の財産を特定の人や団体に贈る、または寄付することを「遺贈」と呼んでいます。PHD 協会では遺贈や遺産の一部のご寄付、遺品のご寄贈を承っています。遺贈によってご自身で築かれた財産の一部をアジア・太平洋地域の未来のために役立てることができます。PHD 協会への遺贈、遺産の寄付にご関心のある方は当会事務局までお問い合わせください。

坂西 卓郎 八木 純二=文

背景写真：ネパール 震災後に設けられた青空教室に通う子ども

佐藤寿一さんからの遺贈

神戸シルバーカレッジ9期生の佐藤寿一（じゅいち）さん。国際交流・協力コースのご出身であり、PHD協会の研修生もお世話になりました。当時の研修生はインドネシアで言えばミミさん（02年度）、エルリナさん（03年度）の頃になります。その後、ずっとお付き合い下さり、昨年も研修生の帰国報告会に来て下さっていました。しかし、昨春不慮の事故にてお亡くなりになられ、奥様から「故人の遺志により遺贈寄付をさせていただきたい」とご連絡をいただきました。実は佐藤さんご夫妻は海外旅行に行く機会も多く、寿一さんはその度に遺書をしたためられていたとのこと。

様もシルバーカレッジの15期生でしたが、総合芸術コースということで研修生に出会っていただくのは初めてでした。今年の研修生の澁瀨さと意欲に触れ、「夫の想いを知ることができました。私も想いを引き継ぎたいと思います」とおっしゃっていただきました。



佐藤寿一さんの遺影の前に

湯口恵さんご遺族からの遺品寄贈

PHDでは使用済み切手を集め、これを現金化して活動資金の一部としております。なかには故人の貴重な切手コレクションをご遺族より寄贈いただく場合もあります。

PHDが生まれる以前より、日本基督教団兵庫松本通教会にて、長く社会貢献を行っておられた湯口秀治さん。聖書関連を中心に多くの切手も収集され、貴重な切手コレクションをお持ちでした。湯口さんが40年前に亡くなられた後は、コレクションは長女の湯口恵さんに引き継がれました。

お父上同様にキリスト者であった湯口恵さんは、日本基督教団神戸教会に通われており、当時のPHD協会総主事であった草地賢一とも親交がありました。その縁でPHD運動にも大変ご理解があり、会員として長くPHDを支えていただきました。

残念ながら、湯口恵さんも2016年3月にご逝去されました。その後、恵さんの二人の妹、牧野悦さんとPHD会員である原野直美さんが湯口秀治さんの切手コレクションを受け継ぎました。

そして2016年8月、キリスト者として社会のために活動してきた父と姉の遺志に沿いたいという想いで、牧野さんと原野さんより、故人と縁のあるPHD協会に貴重な切手コレクションをご寄贈いただきました。湯口秀治さんの切手コレクションは、PHD協会と日頃から使用済み切手をやり取りしている収集家によって換金され、活動資金として活用させていただいております。

長くご支援下さった佐藤さん、湯口さんのご冥福をお祈りします。大切なお遺産をお預かりすることは心が引き締まる思いです。アジアの未来につながる活用をさせていただくことで佐藤さん、湯口さんの想いにお応えしたいと思います。天国よりお見守り下さい。



研修担当

大倉 梨花 (上写真左側)

大学院を卒業してから何をしたいのかが分からず悩んでいた私にとって、国内研修生として活動したこの一年は、自分探しの時間でした。研修生と一緒に、いろんな研修場所を訪れ、彼女達と一緒に農業や保育を体験し、さまざまな職業に就く人達のお話を聞かせてもらったことはとても勉強になりました。一年の間に彼女達の日本語がどんどん上手くなり、日本の生活にも馴染んでいく姿や、様々なことを吸収していく力に驚かされ、刺激を受けました。またインドネシアで三週間日本語ボランティアをする機会ももらいました。家族や親戚、地域との深いつながりの中で、ゆったりと流れるインドネシアの人達の生活は日本での自分の暮らしとは全く違うもので、今の瞬間を一生懸命生きている姿や、仲間同士お互い支え合う姿は心に強く残っています。他にもJICA研修など、たくさんのご経験させていただきました。いたらないところが多い私を信頼し、いろんな仕事を任せ、暖かく見守ってくださったPHD職員の皆さんや、PHD協会を応援してくださっている方々に心から感謝したいです。

広報・啓発担当

加藤 志歩 (上写真右側)

研修が始まった頃は、私が就職活動真っ只中だったこともあり、事務所に来れる日も少なく戸惑うことばかりでした。1番の悩みは久しぶりに会う研修生たちと、どの様に接したらいいのかでした。しかしその戸惑いも彼女たちと過ごす時間が増えていくと自然と解消されていきました。また3人の研修に同行し、PHDをサポートしてくださっている多くの支援者の方々との出会いが、国内研修生になって最も貴重な経験だったと思います。私はこの出会いの中でたくさんのご経験をさせていただきました。海外の事ばかりに注目していて、自分の国の事を全く知らなかったという事を改めて考えさせられました。様々な場所で活動されている人たちから教わることばかりでした。この1年間の国内研修生としての経験は、将来私が国際協力の世界で働くという夢に近づく大きな一歩となりました。

皆さんともお世話になりました。本当にありがとうございました!!



One year
二〇一六年度 国内研修生 一年を振り返って

PHD 活動紹介 2016年11月～2017年2月

11月

- 2日 小野加東ロータリークラブ例会(今里・スリザナ)
- 2日 篠山ロータリークラブ例会(上石・リンダ)
- 2日 愛媛県生涯学習課 来訪(坂西)
- 3日 神戸市シルバーカレッジパーベキュー(八木・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 7日 名張市立桔梗が丘東小学校 講義:NGO相談員(坂西・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 8日 名古屋石田学園 星城中学校 講義:NGO相談員(上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 14日 多可町長訪問(坂西)
- 15日 NGO-JICA 協議会 CDN 会議①(坂西)
- 16日 NPO 法人しゃらく職員来訪(坂西)
- 18日 川西ロータリークラブ例会(上石・マーチョ)
- 18日 31 回地域農政フォーラム(坂西)
- 18日 タイツアー説明会(坂西・八木)
- 19日 こうべ小学校 ふれあいフェスタ 交流会(今里・マーチョ)
- 19日 NGO 大学(坂西)
- 19日 スタディツアー合同説明会:NGO 相談員(坂西・八木)
- 21日 のぞみ保育園 交流会(今里・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 21日 NPO 法人アイキャン職員 来訪(坂西)
- 22日 PHD 協会役員・評議員懇親会(全員)
- 24日 防災研修ふりかえり(坂西・今里)
- 25日 佐藤さん宅訪問(坂西・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 25日 神戸常盤大学 講義:NGO 相談員(坂西・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 25日 関西学院大学 講義:NGO 相談員(坂西・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 26日 コープこうべ 西宮神社バザー(上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 26日 サンクスギビングディナーパーティ(上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 28日 NGO 相談員会議 in 岡山 (～29日)(坂西・上石)
- 29日 兵庫県立明石城西高等学校 交流会(今里・スリザナ・リンダ・マーチョ・大倉)
- 30日 篠山ロータリークラブ例会(坂西・上石)
- 30日 神戸 NGO 協議会(坂西・上石)

12月

- 1日 リタワークス(株) 来訪(坂西・八木)
- 3日 寄付月間記念ファンレイジング大会 in 大阪(坂西・上石)
- 5日 兵庫県ユニセフ協会評議員(坂西)
- 6日 FM わいわい職員 来訪(坂西)
- 7日 NGO-JICA 協議会 CDN 会議②(坂西)
- 7日 関西 NGO 協議会 理事会(坂西)
- 8日 兵庫県立加古川西高等学校 講義:NGO 相談員(坂西)
- 9日 明石市役所 訪問(坂西)
- 10日 Let's cook together タイ料理(ジェン・大倉)
- 10日 職員事前説明会(坂西・今里)
- 11日 国際ソロプチミスト神戸 クリスマス会(上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 11日 神戸YWCA 国際協力基金街頭募金(坂西・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 12日 ひょうご NPO/NGO 合同説明会(坂西・上石)
- 14日 コープ加西 研修打合せ(今里)
- 15日 京都府立洛北高等学校 講義(上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 17日 川西ロータリークラブ クリスマス例会(上石・マーチョ)
- 18日 小野加東ロータリークラブ クリスマス例会(上石・スリザナ)
- 20日 職員研修(スタディツアーふりかえり)(全員)
- 20日 大阪女学院大学 講義(坂西・上石)
- 21日 神戸親和女子大学 講義:NGO 相談員(坂西・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 21日 篠山ロータリークラブ クリスマス例会(上石・リンダ)
- 22日 PHD 協会 大掃除(全員)
- 23日 ワンワールドフェスティバル for ユース(坂西・上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 23日 ネパール出張 (～29日)(八木)
- 24日 ネパール出張 (～28日)(坂西)
- 29日 中野さん餅つき大会(今里・スリザナ・リンダ・マーチョ・大倉)

1月

- 5日 定例スタッフ会議(坂西・今里・八木・上石・大倉・加藤)
- 6日 職員説明会(今里)
- 19日 PHD 協会財務委員会(坂西・上石)
- 25日 小野加東ロータリークラブ例会(八木・スリザナ)
- 25日 篠山ロータリークラブ例会(上石・リンダ)
- 27日 川西ロータリークラブ例会(上石・マーチョ)
- 27日 関西学院高等部 礼拝・講義:NGO 相談員(坂西・スリザナ・リンダ)
- 27日 職員募集説明会(坂西・今里・八木・上石)
- 28日 職員募集説明会(坂西・今里・八木・上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 31日 定例スタッフ会議(坂西・今里・八木・上石)

2月

- 1日 PHD 協会理事会・評議員会・運営協力委員会(坂西・今里・八木・上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 3日 生田神社節分祭 参加(上石・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 3日 職員募集説明会(坂西・今里)
- 3日 神戸 NGO 協議会(坂西・上石)
- 4日 ワンワールドフェスティバル NGO 相談員(～5日)(坂西・上石)
- 6日 淡路市立北淡中学校 交流会(今里・八木・大倉・加藤・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 6日 淡路市立志筑小学校 交流会(今里・八木・大倉・加藤・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 7日 南あわじ市立阿万小学校 交流会(今里・八木・大倉・加藤・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 8日 小野加東ロータリークラブ例会(上石・スリザナ)
- 8日 JICA 合同 CDN 会議(坂西)
- 9日 国内研修生説明会(大倉・加藤)
- 10日 川西ロータリークラブ例会(上石・マーチョ)
- 13日 定例スタッフ会議(坂西・八木・上石・今里)
- 15日 篠山ロータリークラブ例会(上石・リンダ)
- 19日 タイスタディツアー (～3月1日)(坂西・上石)
- 22日 兵庫県立国際高等学校 講義(今里・スリザナ・リンダ・マーチョ)
- 25日 加東市連合婦人会 報告会(今里・スリザナ・リンダ・マーチョ・大倉・加藤)



外務省委嘱 NGO 相談員として神戸常盤大学にて講演。



淡路島モンキーセンターを訪問。猿に対する農業の被害や群れの文化について学ぶ。

退職の挨拶

今里 拓哉

前職でフィリピンのミンダナオ島にいた頃、当時ネグロス島にいた坂西さんが飛行機を乗り継いでわざわざ尋ねに来てくれたのが2010年。地元の店で氷入りのビールを飲みながら、国際協力やNGOのあり方、PHDの将来像などを熱く語ったのを今でも覚えています。これをきっかけに、いずれPHDで働くことを意識し始めました。その2年後にPHD入職。2012年度から2016年度の約5年の間、研修業務を担当させていただき、今年度をもって新職員に引き継ぐこととなりました。

そもそも私の国際協力との出会いはインドネシアと日本を舞台としたODA問題。政府主導の国際協力でありながら、受益者であるはずの現地住民から訴訟を起こされる有様。多くの住民が反対しているにもかかわらず、彼らの村々をダム湖に沈めて発電することを「国際協力」と高々と謳う税金の使い方に憤りを覚えたのがきっかけです。

納得のできる国際協力のあり方を求め、所属団体や活動地域を点々とし、ようやくたどり着いたのがPHD。村出身の研修生たちが、日本の抱える課題に触れ、その課題に立ち向かう人々と共に学びあう。そこから村の将来を村人自身に考察してもらい人材育成を通じた国際協力。即効性に乏しく、成果の数値化も可視化も難しいのですが、外部者である支援者の関与が限りなく少ない、この村人中心の形態こそ、私が行き着いた国際協力の在り方です。

研修を提供して下さり続けてくれた指導者の皆さん。様々な形で支えて下さるホストファミリーや支援者の方々。そして出身地域のより良い未来のため一年間のPHD研修に耐え、村で頑張る研修生たち。皆さんとの出会いから多くの刺激を頂きました。それは皆さんの生活や活動から来るもので、言葉で表現するとして「地域に根差した生き方」。これまで海

外にばかり目を向けていた私にとって皆さんの生き方には憧れ続けてきました。そしてこのたび、皆さんに少しでも近づけたらと、その第一歩を踏むことになりました。

4月からは地域おこし協力隊として、瀬戸内海に浮かぶ関前諸島(愛媛県今治市)に移住させていただきます。三つの島々から成り、人口は合わせて約400人。柑橘栽培が盛んな島々です。この地にお邪魔し、地域の方々と共に生活させていただきながら、私の役割を探します。

後任の研修担当は前田千春さんです。研修担当としてのポテンシャル高いです!私も今後は別の形でPHDと関わり続けさせていただきます。皆さん、今後ともPHD協会をどうぞよろしくお願いいたします。



PHD News

◆ 2017年度国内研修生募集



・国内研修生参加の夏のスタディツアー（ミャンマー）
研修期間や日数によって、スタディツアー（ネパール、ミャンマー、インドネシアのいずれか）の航空券が支給されます。

アジア・南太平洋地域からやってきた研修生とともに学びませんか？ 国際協力に興味がある人、世界や日本の課題が気になる人、NGOや国際機関で働いてみたい人、是非一度お問い合わせください。

【研修地】

原則当協会事務所。交通費支給（上限有）。
海外研修生の研修現場（主に兵庫県内各地）

【期間】

2017年4月より2018年3月までの間で、週3日以上10:00～18:00を原則とする。

期間・日数などの詳細は面談の上決定。

2017年度PHDスタディツアーのご案内

帰国したPHD研修生に会い、学ぶ旅。一緒に出掛けませんか？

予定訪問国

ネパール : 7月下旬～8月上旬

ミャンマー : 8月下旬

インドネシア : 9月上旬(予定)

タイ : 2018年2月下旬(予定)

各ツアーの旅程は詳細が決まり次第、順次発表させていただきます。

【ネパールを訪問するという復興支援】

・元研修生たちの被災者支援視察

・ダリット(不可触民)の村でホームステイ

・ダリットの母親グループからの研修生選考

・PHDが支援した小学校再建式に参加

◆ 書き損じ・未使用ハガキはPHDまで！

外貨紙幣（特にネパール、ミャンマー、インドネシア、タイ歓迎）、使用済み切手*も集めています。ご家庭でご不要になったものがありましたら、どうぞPHD協会までお寄せください。よろしくお祈りします！！

【使用済み切手の消印に関して】

使用済み切手を紙から切り離す際は、消印部分も切手と一緒に切り、送付ください。

◆ 個人住民税の寄付金税額控除改正のご案内

2017年1月1日以降の寄付に関して県民税と市民税の税率が改められました。改正に伴い神戸市在住の方が当会にご寄付いただいた場合には住民税の税額控除額が増額されます。詳細は事務局までお問い合わせください。

ある日の今里さん

○月×日のPHD協会

職員 今里 入職時の面接で遅刻し不採用になるも再面接でなんとか合格した過去を持つ。が、今は研修生に偉そうに指導中。ごめんね、スリザナ。

職員 上石 時々、無言でにっこりこっちを見つめてくる今里さん。大体「今日、出金いける？」とおどおど。気にしないでいいのにかわいい今里さん。でも、もしかして私のこと怯えている？

職員 八木 しょっちゅう眼鏡を頭にかけている今里さん。なぜ？ずっと不思議。伊達眼鏡？老眼？ド根性カエルひろしを思い出す。結論は帰国子女ゆえ。

スリザナ 時間に遅れて怒られたこと。とっても怖かった！日記に書いてずっと忘れない。でも、本当に怖かったのは横にいたリンダ。本人はど吹風？

リンダ 12月のルミナリエの時、初めて優しくて「本当に今里さんかな？」とびっくり。半年間優しくなかったの？ ※「余暇だったからね」今里談
マーチョ 来日時、一人一日遅れて来日。関空で今里さんが出迎え、思わずハグ。「今里さんの暖かさ、忘れない」と。 ※「ハグはエロいな」リンダ談

職員 坂西 背筋を伸ばして歩く姿に密かに憧れる。でも、2014年の大けがで歩行が絶望と聞き、もうその姿も見られないと思いきや復帰。心配して損したね♪

以上、事務所から家が近い順

【受付時間変更のお知らせ】

事務所受付時間
平日及び土曜日（祝日除く）
AM10:00～PM18:00

4月より多様な働き方実現のため事務所の受付時間を10時～18時とさせていただきます。ご不便おかけしますが、ご理解の程よろしくお祈りします。

編集協力：桃骨